

# 所報

No. 29  
昭和63年11月

広島市教育センター

M. Kamigochi

## 創立10周年に思う



元広島市教育センター所長 久保田 尚

広島市教育センターが、創立10周年を迎えられたことを、心からお喜び申し上げます。

思えば、私にとって教育センターとの関わりは、昭和46年、市教育委員会指導課において「教育センターの基本構想」を立て、設置の必要性を具申したことに始まります。

当時の環境は、設立の機運に乏しく難航が続きましたが、51年度になってようやく建設が認められ、53年1月、小雪の舞う現在地において起工式が行われた時には、長年の夢の裏りに感無量なものがありました。

53年10月には、しょう洒な建物が完成し、待望の教育センターが発足しました。

ところで、縁とは奇しきもので、54年4月、私は教育センターへの勤務辞令を拝領しましたが、着任しての第一の課題は、政令指定都市昇格を目前にして、教職員研修施設の拡充建設ということでした。

幸いにも、多くの方々の絶大なご尽力によって、57年3月、実験・実技、製作実習や教育工学、視聴覚研修、教育相談等の施設設備を備えた新館が偉容を現しました。

山高きが故に尊からず、樹あるを以って尊しとす、といます。建物が輪奐の美を誇っても、施設設備がいかにか充実完備していてもそれが活用され、研修の実りがなければ意味はありません。

ありがたいことに、所員は草創の意気に燃え「劫初より造り営む殿堂に、我も黄金の釘一つ打つ」の気概を以って、事業の推進に渾身の力を傾注して取り組み、その姿には涙ぐましいものがありました。このことは、学校や校長会等のご協力と研修生各自の自己啓発への熱意や気魄と相まって、創業への力強い原動力となり、私は前途に曙光を見出し、深い喜びを味わうことができました。

私は在職4年間、常に重い荷物を感じながらも充実した日々であったと、今心楽しく回想し、この間多くの方々との邂逅を想い、ご支援に対して感謝の気持ちでいっぱいです。

この10周年が大きく飛躍する起点となることを念じながら、今日の教育課題の究明と未来を志向する教育への要請に応える教育センターとして、ますます充実発展されることをお祈りいたします。

## 創立10周年記念特集(1)

## 今、求められている研修

広島大学教育学部助教授 岡東 壽 隆

私に広島大学で教育学を勉強しようというきっかけを与えてくれたのは、昭和30年代初期の竹原市の北部に位置する賀茂川中学校の教育実践である。「自発協同学習」として知られるその実践は、信川実先生という校長のリーダーシップにもよろうが、それ以上に先生方の研修の成果が大きいと考える。

中学校在学時代を回顧しながら最近の研修に求められる課題を述べてみたい。

この中学校に入学してまず驚いたり、理解に苦しんだことは、入学式や朝礼を通じて、ルソー、ヘスタロッチ、フレーベルといった教育学の先哲の名が頻繁に出てくることであった。ことにフレーベルの教育思想は、この学校の教育理念であり、教育目標になっていた。生徒に向けられた言葉、いわば校訓であるが、それは「目に見えないものを相手に」である。フレーベルは『人間の教育』において、人間の本分は、自己の本質、自己の神性を意識して、自己決定と自由をもって、自らの生活の中に顕現していくこと、活動させること、明瞭にすることだとし、教育はそれを励まし、道と手段を示すことだとしている。このような理念を先生方は研修し、一つひとつの意味を問い直し、共通理解の幅を広げ、実践に移していく具体的な方法を「自発協同学習」として創出されていた。

この学校では、学校経営や教育方法というもの、教育効果を上げる単なる技術でもなければ、人や物の「操作」でもない。それらは常に教育理念によって生が与えられ、教育理念を具現化する活動とみなされている。授業や生徒指導のみならず、事務、施設・設備の管理であれ、学校内のすべての活動が教育理念の具現化に向けられている。

今日、「個性ある学校経営」とか「創造的な学校経営」が叫ばれ、それに向けての学校改善や教師の研修の必要性が説かれる。ところが研修の実態をみると、実践的力量的の形成に比重がかけられ、「技術性」の追求とその最適化に終始している。授業研究でも、生徒指導でも、学校経営などの領域でもそうである。学校経営の諸実践の反省と革新に資する原理としての教育理念は、学校として、常に追い求めていかなければならない。教育理念に包含される「意味」の共有を教師間で拡大していこうとする研修はほとんどない。校外での研修にそれを求めることはできない。校内研修にこそそれが可能なのである。「技術性」を高めていく研修を毛頭否定はしないが、個々の学校で教育理念を持ち合わせていくこと、それを具現化するためには、授業はどう進めるのか、経営はどのようにやらなければならないのかなどを常に思考することこそ大切にされなければならないと考える。そこに学校の「個性」や「創造性」が出てこよう。

「原理があって実践がともなわなかったり、実践があって原理がない」ものは、真の学校革新になりえないと信川先生は指摘される。教育改革論議は盛んだが、実践を振り返って実践を改めていく根本的な教育理念と、教育理念それ自体を実践を通じて一人ひとりの教師が高め、相互啓発によってさらに高めていく努力があって、学校経営の革新は進められる。教育理念は学校を動かすのである。今、求められる研修は、学校として、教職員集団として、どのような理念を共有できるか、それを追い求めることではないだろうか。教育理念の具体的展開を創出するのが、求められる研修であると考え。

## 創立10周年記念特集(2)

## 心と体の教育を

広島市立幟町小学校長 古川 典行

10日間の洋上研修を終えた新任教師の「研修生のマナーについては考えさせられた」という帰校第一声、連日のように報道される若者の生命軽視の風潮、私が人間ドックで食事をした時「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をしない大人に驚いたことなどを思うにつけ、今次改訂される教育課程基準の改善の課題とさえ言われる道徳教育の大切さをかみしめながらスタートした二学期です。

今、日本の初等教育は知的な面では世界のトップレベルにあると言われていますが、これを支える人格・心・体の教育についての貧しさが心配されているところです。

また、本県のスポーツ振興、競技力向上についての新聞記事が目につきます。それに併せて、子どもたちの体位や体力、運動能力のひ弱さが話題となっています。

教育改革は論議の段階から、実践の段階を迎えようとしています。21世紀社会に生きる豊かな心をもつたくましい子どもたちの育成に、今、教師の力量が期待されています。

教育センター開設以来のご苦労に感謝し、10周年を心からお祝いするとともに、今日の教育課題とも言える心と体の教育について、これまで以上の研修の場を設けていただきませうことをお願いする次第です。



## 教育センターに期待する



## 研修の意欲づけの場に

広島市立幟園東中学校長 杉山 武郎

若い頃、理科の教師である私は、よく県立理科教育センターを利用したものです。

どうすればわかりやすく教えられるか、こんな実験で指導目標は達せられるのか、このような悩みを同僚教師に教えてもらったり、議論したりして解決しようとしたものですが、やはり未解決の問題は多く残りました。

そんな時、理科教育センターは大変役立ちました。それは、そこで学ぶ内容もさることながら、そこに集まる人からいろんな考え方を聞くことができたからです。

自分と同じ考えには、喜びとともに自信を深め、異った考え方に対しては、己の不勉強

を嘆き、大いに刺激も受けました。

私にとって理科教育センターとは、多くの学ぶ仲間を得、その人たちによって明日からの研修への意欲を与えてもらう場でした。

広島市教育センターは、出来上がった研修メニューを選ばせて食べさせるだけというところではなく、研修生同士の心が触れ合う場であり、思いきり発表し合い、意見を交換できる研修の場であってほしいと思います。

研修は与えてもらうのを待つより、現場の実践の中から課題を求めていくものでなければなりません。教育センターが教育創造の真の意味での中心であることを望みます。

## 教育研究紹介

## 天体の指導に関する教具の開発

### —「星座の年周運動モデル実験機」の製作—

広島市教育センター指導主事 西川 勝 士

中学校理科第2分野「宇宙とその中の地球」の指導では、観察・観測ができ難いことや適切な教具が少ないことなど様々な指導の難しさが指摘されている。本研究では、これらの問題点解決に役立つ教具の開発を行ったものである。

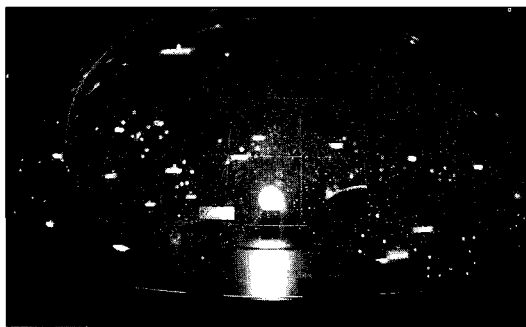
#### 開発教具の機能

小・中学校の天体の学習内容から開発教具の観察・実験機能を次のように設定した。

- 昼夜が生じる原理が観察・実験できる
- 四季が生じる原理が観察・実験できる
- 星や太陽の1日の動きが検証できる
- 星や太陽の1年の動きが検証できる
- 星や星座などの観察・観測の補助的機能を持つ
- 夜景の状況（自然感）が表現できる

#### 開発教具の特徴

天体の理解を深めることができるよう宇宙の広がり立体化し、天体の日周運動や年周運動等の事象・現象を地球の動き（地動説）太陽や星の見かけの動き（天動説）を観察・実験できるようにした。



◀ 開発教具の夜景状況

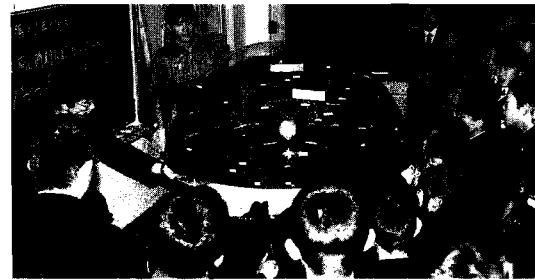
#### 開発教具の構造

大型透明半球の内側に手書きした星座へブラックライトの光を照射することにより星座が発光し、天球ドーム全体が夜景の状態として浮き出る。天球ドームの中心に擬太陽「黄

色電球」を固定し、必要な明るさが自由にコントロールできるよう抵抗スイッチを接続した。地球は、太陽を中心に公転、自転が任意の速度で回転できるように天球ドーム外側にハンドルにより操作するようにした。また、地球を任意な位置で制止させ、天球ドームを動かすことにより、見かけの太陽や星の動きを捕らえることができるようにした。

#### 開発教具による検証授業

市立中学校2校（研究協力員在勤校）で教具としての有効性や改良すべき点を把握するため「日周運動」「年周運動」の学習内容を中心に授業を行った。



◀ 年周運動の授業風景

#### 開発教具の有効性についての調査結果

開発した教具が生徒や教師にとって有効であるかどうかを明らかにするために、視覚や機能、学習理解、興味・関心、探求心及び意欲などについてアンケート調査を実施した。すべての項目で有効性が認められたが、教師の調査結果から、特に重量や持ち運び、天球ドームの衝撃に対する強度などに対して難点があることが明らかになった。

#### 今後の課題

天体の指導に、より有効な教具として改善を図るとともに、この教具を活用する指導法について研究を深めていきたい。

広島市教育センター『研究紀要』第8号（昭和63年4月発行）参照

広島市学校教育史点描(4)

ラジオ体操

広島市教育センター指導主事 松田了二

子どもたちの夏休みの朝は早い。朝の公園や広場には、出欠カードを首にぶら下げた子どもたちが、眠そうな目をこすりながらラジオ体操に集まってくる。

ラジオ体操は、通信省簡易保険局が保険事業を進める目的で考案し、昭和3年11月1日に東京中央放送局管内ではじめて放送開始された。この年開局した広島放送局(JOFK)が、翌年3月から全国放送を中継するまで1年余り放送した体操は、休日を除く毎朝7時、ラッパ手の起床ラッパで始め、号令によって行われたという。

夏休みの朝の行事となったラジオ体操も、当時はラジオ受信機が少なく、学校などを会場に実施され、参加者が連日300人を超える会場もあったという。また、学校では全校体

操などで、先生のオルガンに合わせてラジオ体操を行う風景も見られたという。

ラジオ体操は、戦後一時期中止されたが、今年11月で還暦を迎える。この夏も、子ども会行事などとして実施され、全国では、連日3,000万の人の参加があったといわれる。



白島小学校卒業アルバム(昭和9年)より

研修講座スナップ

自己を磨く

～中期分(7月下旬～8月)研修講座より～

▶コンピュータ講座



◀中学校理科実験講座

—— 中期分研修参加者数 ——

延べ 4,059名



▲小学校道徳資料作成講座



▲生徒指導講座

# 教育センターひろば

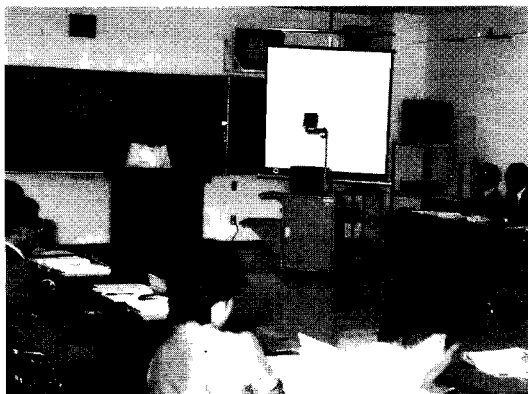
## 創立10周年記念教養講座へどうぞ

- \* 講師 評論家  
草柳大蔵先生  
著書「企業王国論」「水は深く掘れ」  
ほか多数
- \* 演題 「制度の真実と現場の真実」
- \* 日時 昭和63年12月1日(木) 14:30～
- \* 場所 広島市青少年センター
- \* 対象 教職員、社会教育関係職員

## 教員特別研修生

今年度後期は次の5名の先生方が、それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

- \* 理科教育：土屋恭子教諭（落合中学校）  
研修題目：直接経験を通して、学習理解を深める指導法の研究
- \* 英語科教育：坂恵子教諭（伴中学校）  
研修題目：Reading の運用能力を育てる指導法についての研究
- \* 生徒指導：川島廣行教諭（山田小学校）  
研修題目：孤立化傾向を示す児童の人間関係を育てる生徒指導の研究
- \* 教育相談：石原洋教諭（幟町小学校）  
研修題目：体験学習を通して児童の好ましい人間関係を育てる研究
- \* 教育工学：久留島和彦教諭（矢野小学校）  
研修題目：個別的学习の場におけるコンピュータ活用法についての研究



◀ 研究報告会

## 昭和63年度研究協力員

教育センターでは教育研究をすすめるに当たって、次の方々に研究協力員をお願いしています。

### 昭和63年度研究協力員

研究領域	研究協力員氏名	所属校(園)名
生徒指導	市川昭彦	落合中学校
	香川豊志	安西中学校
	藤井俊孝	五日市中学校
	末友承三	似島学園中学校
	後藤貞	翠町中学校
	新川和博	祇園東中学校
	幾田擁明	基町高等学校
	久村和夫	沼田高等学校
	佐々木浩志	広島工業高等学校
	生活科教育	古山忍
佐々木三千男		倉掛小学校
須田巳代子		白島小学校
古部智恵		白島小学校
楠田賢二		元宇品小学校
安井薫		本川小学校
今田テル子		本川小学校
古田知子		矢野小学校
黒木富美子		矢野小学校
国語科教育		植木一郎
障害児教育	野村幸子	広島養護学校
幼稚園教育	中山千恵	船越幼稚園
算数科教育	亀宝悠二	原小学校
理科教育	平元弘次	吉島中学校
技術・家庭科教育	坂日康孝	観音中学校
教育工学	吉岡正憲	国泰寺中学校

表紙絵 広島市立広瀬小学校長 上河内昌巳  
～原爆ドーム～

題字 広島市立門田中学校長 多川 清和

## 編集後記

今回は、広島市教育センター創立10周年記念特集を中心に編集しました。この10周年を新たな節目として、今後ますます役に立ち活用される教育センターとなるよう努力を重ねたいと思います。